



富士金属工業団地

工場を拡張したいが、周辺が住宅のためできない。騒音や振動などの苦情が多く出ている。——こんな事業所の悩みを解消し、工業振興をさらに図ろうと、市は小規模事業所集団化事業を進めています。

# 小規模事業所を団地化

## 住宅と工場を分離

移転希望事業所は工業課へ

### 移転理由は「作業所が狭い」など

この事業は、公害問題などで悩んでいる小規模事業所を1カ所に集め団地化することによって、工場の整備と経営の安定化を図ろう——というものです。対象は、概ね従業員20人以下の事業所ですが、それ以外の事業所でも立地状況によっては参加できます。現在、住宅密集地や市街地にある事業所の多くが、振動や騒音などの公害の苦情、あるいは、密集地のため作業所の拡張ができないなどの悩みを抱えています。

市が昨年行ったアンケート調査では、集団化して移転したい事業所が全体の半数以上もあることがわかり

ました。移転希望の主な理由としては、「作業所が狭い」「用途指定のため増設が不可能」「借地・借家のため」などがあげられていました。

また、市民から苦情を受けたことのある事業所は、全体の約30％。

苦情の最も多いのは「騒音」、次に「振動」「ばい煙」の順でした。

このような悩みを抱えている小規模事業所にとって、1事業所だけでこれらの問題を解決するということは、大変むずかしいことです。

そこで、移転希望のある事業所が集まって協同組合をつくり、集団移転し、住宅地と離れた新しい場所へ工場団地を造ろうというのが、この小規模事業所集団化事業の大きなねらいです。



### 緑樹の果す役割は

(こえ) 市内の広い通りには街路樹が植えられ、公園にも緑が増えてきました。緑のある街は、市民にとって魅力ある街です。

そこで緑樹の果す役割をPRすると同時に、これからも緑をもっと増やしてください。(一市民)

(こたえ) 緑樹の果す役割はいろいろありますので、今回と次回の二回にわけでお知らせします。

今回は地震時などに予想される火災に對しての効果を説明します。

普通の木材は、面積一平方メートル当たり一時間に四千キロカロリーの熱(真夏の太陽で千キロカロリーぐらい)を受けると着火しますが、生の立木は一万千ロカロリーを超えてもなかなか着火しません。

建設省建築研究所では、樹木二十種について耐火力の実験をし、ランクづけをしています。

その結果、モッコクやサンゴジュが最も火に強く一級、サザンカの生け垣はそれにつぐ二級、イチヨウの並木などは三級と分類されています。

このように緑は、無言で都市生活を守り続けています。(市みどりの課)